

## 事業報告書（令和5年度）

事業名 私たちはどこから来て、どこに向かうのだろう

団体名 ESD・SDGsから地域の未来を考える会

担当者名 岩堂秀明

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

#### (1) 地域の歴史講話

- ① 主題：地域の歴史講話 ②日時：5月2日（火）及び8日（月） ③場所：岡山市立角山小学校、小鳥の森 ④参加者約55名（児童、教員、本会会員）⑤内容 ESD・SDGsから地域の未来を考える会副代表の吉田誠が岡山市立角山小学校（ユネスコスクール指定校）児童への地域の歴史とESD・SDGsについて講話。

**(SDGs：4質の高い教育をみんなに、11住み続けられるまちづくりを)**



左写真：3・4年生総合的な学習の時間  
右写真：小鳥の森（岡山市竹原）見学

#### (2) ユネスコスクールにおいて「ESD・SDGs」

- ①主題：「ESD・SDGsとは」②日時：5月12日（金）16:00～17:00 ③場所：岡山市立浮田小学校  
④参加者：浮田小学校教員、本会会員等23名 ⑤内容：ESD・SDGsから地域の未来



を考える会代表岩堂秀明が ESD・SDGs において学校教育で押さえるべき事項（学習指導要領と ESD・SDGs）について講話するとともに、当該校の ESD・SDGs について再確認した。

**(SDGs：4質の高い教育をみんなに、5ジェンダー平等を実現しよう)**

写真：講演を受けてグループ協議の様子

### (3) 「木野山神社現地視察」



①主題：木野山神社視察 ②日時：5月15日(金) ③場所：高梁市木野山神社 ④参加者5名 ⑤内容：本会副代表 吉田誠 が、コレラ信仰の木野山神社本宮において、木野山神社の歴史及び明治初頭のコレラ騒動、オオカミ信仰と精神疾患について参加者に講義を行う。

左写真：参加者

(SDGs：3すべての人に健康と福祉を、5ジェンダー平等を実現しよう、6安全な水とトイレを世界中に、11住み続けられるまちづくりを)

### (4) 「ESD・SDGs研修」

①主題：ESD・SDGs研修 ②日時：7月31日(月)15:00~16:00 ③場所：岡山市立上道



公民館 ④参加者約90名：岡山市立上道中学校区の幼・小・中学校教職員(80名)と本会会員10名 ⑤内容：岡山ユネスコ協会から池田満之氏を招き、ESD・SDGsやユネスコスクール等について学ぶ。

写真：池田満之氏の講演の様子

(SDGs及びESDすべてに関連した内容)

### (5) 「心の病」の研修



①主題：「心の病」の研修 ②日時：9月22日(金)13:30~15:00 ③場所：岡山市立上道公民館 ④参加者28名(公民館主催の高齢者生きがいセミナー会員20名と本会会員8名) ⑤内容：田淵泰子氏(川崎医療短期大学)を講師として一般的な心の病や、精神疾患のグループホーム等について学ぶ。

(SDGs：3すべての人に健康と福祉を、4質の高い教育をみんなに、5ジェンダー平等を実現しよう、11住み続けられるまちづくりを)

写真：田淵泰子氏の講演の様子

(6) 国立療養所長島愛生園現地視察

①主題：「ハンセン病とESD・SDGs」②日時：9月30日(土)10:30~17:00

③場所：瀬戸内市国立療養所長島愛生園 ④参加者15名(本会会員)

⑤内容：長島愛生園訪問(歴史館及び当時の周辺施設)

岡山県瀬戸内市邑久町虫明の国立療養所長島愛生園歴史館等見学(日生港+長島愛生園クルーズ、長島愛生園主催)。学芸員から愛生園の歴史、差別・偏見の過酷な状況について学ぶ。



右写真：慰霊碑  
左写真：本会会員参加者(日生港)



(SDGs:1 貧困をなくそう、3 すべての人に健康と福祉を、5 ジェンダー平等を実現しよう、6 安全な水とトイレを世界中に、11 住み続けられるまちづくりを)

(7) 精神疾患の予防と対応

①主題：「中学生期～高齢者の一般的な精神疾患」とESD・SDGs ②日時：10月22日(日)10:00~

11:30 ③場所：岡山市立上道公民館 ④参加者42名(本会15名、地域からの参加者27名)

⑤内容：吉村優作氏(味野医院精神科医)を講師として招き、精神疾患について臨床経験豊富な精神科医から話を聞き学ぶ



(SDGs:3 すべての人に健康と福祉を、5 ジェンダー平等を実現しよう、11 住み続けられるまちづくりを)

写真：吉村優作氏の講演の様子

(8)心の病（思春期の子どもとの向き合い方～こころの病の予防～



- ① 主題：精神疾患を考える（PTAとして）
- ② 日時：12月5日(火)14：30～15：00
- ③ 場所：岡山市立浮田小学校
- ④ 参加者：45名（浮田小学校 PTA、本会会員）
- ⑤ 内容：田淵 泰子 氏（川崎医療短期大学）を講師として保護者として知ってお

かなければならない精神疾患に関する知識等について学ぶ。

## 2. ESDの視点

### ① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

・ ESD・SDGs についての座学や現地視察から、ESD・SDGs の思考や取り組みについて、自分事として再考するきっかけとなった。

・ ESD・SDGs がマスメディア等において毎日のように記事や報道されることが多いが、取り組み自体の報道はあっても、それが何を意味するのか、本質に触れる内容が少ない。そのため、事業の実施の際には、必ず、ESD・SDGs の本質について触れるため、リーフレットや説明を行った。そうすることで、参加者（自分たち）が本会の事業に参加していることが、様々な観点から持続可能な社会づくりに貢献していることや自分事として考えることができたという意識の変容が見られた。

・ 岡山市立浮田小学校の研修においては、ロジカルな考え方に加え、批判的思考（クリティカルシンキング）を確認するとともに、ESD の本質を学ぶための資料等を作成し配布した。批判的思考（クリティカルシンキング）の重要性から、事象の本質を見ようとする姿勢や、学校教育の場においてアクティブラーニングそのものが、批判的思考と同じであることに気づいたという教員が多かった。（特別ではなく、平素の授業の中で取り組むことの重要性）

・ 心の病について、精神科医や大学教員の話から学ぶことで、自分や周囲が罹患しそうな場合や罹患したとき、うまく乗り越えられる知識を得たという声が多く聞かれた。（自分事して捉えることが必要であるということに気づいたという意）

### ② どのように学び合いを取り入れたか

・ 座学だけでなく、現地視察（小学校における地域の歴史探訪、木野山神社現地視察、長島愛生園訪問）を取り入れた。

・ 岡山市立角山小学校の地域・歴史学習では、学習後に児童に質問の時間を多く取り入れた。予想以上の多くの様々な質問や意見が出され、活発な授業となった。また、他の講演の最後に質問の時間を取り入れ、参加者から様々な意見を出し合ってもらい内容を深めた。

・ 校内の講演では、講義の後にグループ協議を取り入れ、他者の考え等を参考に学びを深めた。

・ ESD・SDGs について、リーフレット（岡山 ESD プロジェクトからのもの）についての質問があり参加者や会員の中で論議することもあった。

### ③ どのような学びと実践を結びつける工夫を行ったか

- ・座学に加えて現地を視察する（角山学区：地域の歴史・偉人、小鳥の森：偉人の碑、木野山神社：コレラパンデミックと現在のコロナパンデミックの比較、精神疾患の学び、長島愛生園：差別・偏見の歴史等）ことで、この問題や課題は、自分たちの問題であることを提起した学びとした。
- ・精神疾患等については、現職の精神科医の専門的な話を聞くことで、それまでは他人事のように考えていた精神疾患を身近な自分事として考えることができた。
- ・公民館活動である主催講座の高齢者生きがいセミナーにおいて、地域の感染症の歴史や精神疾患の学びについて本会と協働して学ぶ機会を創り公民館と共催として、高齢者の学びに協力した。
- ・岡山市立上道中学校区（ユネスコスクールの指定校）の教職員のESDの学び直しを支援するとともに、本会の会員も同じ研修会で交流しながらESDについて学ぶことができた。また、本会役員が事前に近隣の学校を訪問するなどして、実態をつかみ様々な行事を計画した。

### 3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

- ・偏見から来る感染症（現在のコロナ感染症も含む）や過去からの精神疾患患者の世間の厳しい目や差別に目を向けなければならない（自分が生まれてこなければよかった、家族・社会から厳しい言葉等）ことや、対応のあり方によっては周囲の無理解から来る暴言、差別等から、再発したり重度化したりすることもあり得る等があり、自分事としてとらえなければならないということが解ったという声が多くあがった。
- ・感染症や精神疾患に対する偏見や差別が起きるのは、メンタル・リテラシー（知識を理解し、活用する力）の欠如、つまり、病気の知識、予防の知識、認識する知識、治療に対する知識、初期対応の知識の不足から来ることが多い事を学んだ。知識理解だけでは、差別や偏見はなくなる。主体的に研修を何度も受け、この問題を自分事として考える、生きることがさらに重要であることが分かった。
- ・心の病、様々な病気や障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現にむけ、病気や障がいを理由とする差別の解消を推進することの重要性が解った。
- ・岡山市立上道公民館の活動（高齢者セミナーにおいて精神疾患の講演）に参加することで、現在や将来、地域の人々が幸せに暮らすことが出来るように世代を超えた取り組みが今以上に必要であることが分かった。そのことで地域の絆を取り戻すことをねらったが、まだ不十分である。
- ・地域のユネスコスクールの指定校（岡山市立上道中学校、平島小学校、浮田小学校、角山小学校、御休小学校、城東台小学校）の教員約100名を対象としたESD・SDGsについての研修をユネスコスクールの指定校と協働して実施し、ユネスコスクール指定やESD・SDGsそのものを再確認することができ、大変有意義であった。
- ・ESD・SDGsについての学習や取り組みは学校だけでなく生涯学習の視点から世代を超えた取り組みを行うことが重要である。そのためには、公民館活動（高齢者生きがいセミナーや公民館で本会の事業を行う等）を活用したが、高齢者の参加が多く、青少年の参加はまだ課題があると自覚した。
- ・精神疾患に関する精神科医による講演会を実施した。偏見や差別をなくするという観点から、大変有益な会であった。参加者は自分事として考えるきっかけになったようである。そして、地域に残る

過去の感染症に関する事実等からも、地域住民が健康で充実した生活を送る一助となることとした  
い。

#### 4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継 続につながるか）

・これまで ESD・SDGs については、環境について学んだり、環境の改善を行ったりすることであると  
断定して捉えていることが多い。ESD は、持続可能な社会づくりの担い手を育てるために必要な資質・  
能力において特に重要である。なぜこのような課題や問題である事象が起きたのか、クリティカルに  
評価を行い、深く考えることが話題にならないことが多いのは残念である。したがって、取り組みは  
上滑りで単純で単発的になりがちである。社会全体に ESD・SDGs について、再度、問いかける必要が  
ある。

・地域にある身近な教材（木野山神社信仰、ハンセン病）や様々な環境問題等、身近な様々な事象か  
らを学ぶことが大切である。環境問題だけでなく SDGs 17 の目標すべてに目標を広げる必要がある。

・前述した批判的思考（クリティカルシンキング）が持続可能な社会づくりのために必要な資質・能  
力であるのだから、学校教育においては、日々の教科の授業において ESD・SDGs の実践がで  
きるということである。（アクティブラーニング）同じように、一般市民においても、日々の生活の中  
で ESD・SDGs が実践できるということであり、そういう啓発が必要であると ESD・SDGs の実践の中  
で気づかされた。そういう啓発から、豊かな人間性を育み、地域から持続可能な社会、共生社会づく  
りが進んでいくことができ、事象を自分事として捉えることができるようになると思う。

・児童生徒が ESD・SDGs とはということかについて学ぶためには、教員がさらに研修を深めていく  
必要がある。ユネスコスクール指定校は形骸化しつつある傾向にあると感じた。学習指導要領やアク  
ティブラーニングと関連が深い ESD・SDGs から主体的に考え実践することが重要である。機会をとら  
まえて、学校園や社会教育施設等への啓発が必要であると感じる。

※令和 5 年度事業が単発に終わるのではなく、持続可能な取り組みとなるためには、十分な反省（成  
果と課題を明らかにする）が必要であり、次年度の取り組みにつなげていきたい。